

戦後日本のコンペに見る建築家の建築計画・設計理念とその手法に関する研究 その2) —広島平和記念聖堂設計競技における2等・3等入賞案の比較考察—

正会員 ○李 明
同上 石丸紀興
同上 岡河 貢

広島平和記念聖堂 設計競技 入賞案
表現 設計手法 比較

1. はじめに

本研究は、諸文献と調査を通じて、戦後の日本において行われた都市建築コンペにおける建築家達の設計手法とその理念について考察しようとするものである。本稿では前稿¹⁾に引き続き、昭和23年に行われた広島世界平和記念聖堂(以下記念聖堂と略す場合ある)のコンペにおける3等以上の入賞案6点を取り上げ、「平和記念広島カトリック聖堂建築設計競技図集」(昭和24年6月東京新信館英洋社発刊)に掲載されている図面に基づいて、その図面の表現、平面配置計画、内観・外観特徴について比較考察を試みる。衆知のように、記念聖堂のコンペは、戦後日本の建築設計において大きな話題を残している。特に2等入賞の丹下健三の案については議論されているものの、しかし、そのコンペの全般を視野に入れた言及はほとんどない。ここで、本稿で比較考察することは、このコンペの一つの実像を明らかにするにも値するものであるだけでなく、当時の建築家の設計理念や手法を考える上でも重要であると考えられる。

2. 比較考察

衆知のように、コンペの結果2等に井上一典案、丹下健三案が入賞し、3等に衛藤右三郎案、菊竹清訓案、前川国男案、米澤迪雄案が入賞した(案の順位は「平和記念広島カトリック聖堂建築設計競技図集」に掲載された順位である)。これらの入賞案の図面に基づいて、図面の表現、平面配置計画、内観・外観特徴等について若干の比較考察を試みる。

2-1. 図面表現の比較考察

配置図: 丹下案は建物の関係を中心に表現したのに対して、残り5つの案は建物の関係と樹木緑化等の配置をも入れた表現になっている。**平面図:** 井上一典案を除いて、5つの平面図には陰影を入れるなど立体的な表現になっているが、いずれも各空間の名称や機能関係を詳しく示した表現。**立面図:** 井上案を除いて、5つの案はそれぞれ建物の陰影を入れた立面図の表現になり、6つの案の全部が聖堂や塔のデザインを中心とした表現であることが分かる。**断面図:** 井上案と菊竹案は聖堂と附属建物を視野に入れた断面表現であるが、丹下案、衛藤案、前川案、米澤案は聖堂の空間のみの断面表現になっている。**透視図:** 6つの案はともに聖堂や塔を中心に周辺環境を視野に入れた外観表現になっているが、丹下案は外観透視図が2点になっており、広場と建築との詳細の表現が加えられている。内観透視図は6つ案ともに聖堂の内部空間の雰囲気表現している。**詳細図:** 井上案と丹下案は聖堂入り口デザイン詳細図を示しており、菊竹案は聖堂内部採光関係の詳細図を示している。他3つの案は詳細図の表現が見当たらない。**模型:** 模型の表現が掲載されたのは菊竹案のみである。

その他、聖堂建築設計説明書が掲載されたのは、井上案と丹下案のみであるが、他は不詳である。なお、佳作、準佳作の入賞案にも極めて素晴らしい案があるが、全般的には2、3等案に比べて図面量が少ないなどの表現の差異が指摘できる。

2-2. 平面配置の比較

井上案は入り口を南側に設け、正面入り口から直接聖堂を配置し、聖堂の後側に講堂や附属建物を配置するなど集中式の配置計画であり、敷地の4角部分に駐車場を計画しているが、広場空間が少なくないなど、教会側と審査員吉田鉄郎も指摘しているように、ブロック・プランにおいて他の建物との配置関係の欠陥が読み取れる。衛藤右三郎案も集中式配置であり、外廊下によって建物がつながっているが、広場空間が少ない。他の4つの案はそれぞれ広場を中心にしたブロック・プランになっており、特に2等の丹下案は広場を中心に回廊により各建物の空間をつなげようとした平面計画になっている。設計趣旨も書かれているように、本設計競技には聖堂そのものの建築的解決のほか、聖堂、講堂、司教館を含む全計画を与えられた敷地のなかにも有機的に、しかも環境に相応しく配置するの根本的な問題であった。この意味では記念聖堂としての広場空間の存在が重要であり、後者4案がもっと相応しい平面計画であったと指摘できるだろう。

2-3. 内部空間と外観デザインの比較

聖堂内部空間: 井上案は聖堂の天井を高く取り、垂直線を強調した空間、正面には大きな十字架が掛けられ、宗教雰囲気比較的濃厚であること。丹下案は放物線のシャーレン構造を露出した聖堂空間になっており、そこに小さな円形窓孔などを天井と両側に設け、その変化する光によって聖堂の宗教気分を表わそうとした工夫が認められる。衛藤案は垂直線を強調しながら、天井や側窓には日本伝統的な格子模様のデザイン工夫。菊竹案は聖堂両側には連柱を設け、天井に突出した天窓からの光を利用して宗教雰囲気を表わそうとした工夫。前川案は両側の曲面壁と窓に日本伝統的な格子模様がデザインされ、アーチを繰返す天井など比較的優雅な雰囲気を表わしているのが特徴的である。米澤案は両側に短柱を設け、その上に乗っている重厚な壁に縦長い窓を設けている。それぞれの共通点として、井上案、丹下案、米澤案、菊竹案はともに聖堂の内部空間に柱を並んで内廊下を設けていること、衛藤案と前川案は聖堂の両側に日本伝統的な格子模様の装飾を施そうとした工夫が読み取れる。

外観デザイン: 井上案は聖堂の入り口を高く設け、垂直線を強調する聖堂と塔との調和、十字架模様の小さな窓孔が塔や聖堂にデザインされ、塔の頂部に十字架を設けるなど、全般的には宗教的印象が残るデザインになっている。丹下案は放物線のシャーレン構造のデザインや十字架平面上で上広がり塔、聖堂のファサードの伝統的な花紋デザイン工夫など現代技術と日本伝統の結合の試みがある。聖者の人傑は平和と復興を支える象徴であろうが、記念の意味はあるものの、宗教に問われる。露出した十字架は聖堂内部には設けていないが、聖堂の正面には4つの小さな正方形窓孔で出来た十字架型開口を大きな十字架型に配置している隠蔽性が特徴。衛藤案は外廊下の柱廊的印象的、全体的には重量感があるモダンな外観に

The research related to the building plan and the design ideology and the technique of the architect in the competition of Japanese city building in the ages after the war
Comparison consideration of 2 and 3 grade winning proposal in the Hiroshima peace commemoration.

Li ming
Norioki ISHIMARU
Mitugu OKAGAWA

【表-1】 図面による広島世界平和記念聖堂設計競技2、3等入賞案の比較

入賞	作者	所属	競技案の表現			平面計画	聖堂内観と外観デザイン	審査委員評価
			平面図	立面・断面	透視図			
2等入賞案	井上一典案	不詳・徳川	●透視図1点：入り口の位置と建物との関係、駐車場の位置、中庭と外庭の建物との関係を詳しく表現 ●1、2階平面図各1点：入り口と建物との関係、各空間の配置、敷地内道路や駐車場の位置などを詳しく表現	●南、西、西側・東側立面図各1点：聖堂と塔のファサードのデザインに工夫を入れた表現 ●断面図2点：聖堂を中心に講堂の部分も含めての断面表現	●外観透視図1点：聖堂と塔のデザインを強調した表現 ●聖堂内部透視図1点：聖堂内部を2段階にし、垂直線を強調した表現 ●聖堂正面透視図1点：十字架を強調した小さな窓デザイン表現	正面入り口から直接聖堂を配置し、聖堂の後に講堂や司教館等を集中的に配置、敷地の4角線に駐車場を計画しているが、広場空間が少なく、建物の配置が明確ではない。	●聖堂内観：聖堂を2段空間（中庭）にし、垂直線を強調する空間、正面には大きな十字架が掛けられている等宗教心が感じられる。 ●外観：聖堂の入り口を高く設け、垂直線を強調する聖堂と塔との調和、十字架の小さな窓は塔や聖堂のファサードにデザインされ、塔の死頂部に十字架を設けるなど、全体的には宗教的印象が残るデザインになっている。	●教会側：聖堂の宗教的表現力を評価するものの、ブロック・プランにおいて他の建物との配置関係の欠陥が実施案としての能力を失わせ、実行する可能性がないとの評価 ●点検部：聖堂の外部的及び内部的構成に、総体的魅力を見せているものの、各建築の配置に少なからぬ無理があり、全計画には有難くないが、なかなかの引き出しに大きな欠点である指摘
			●透視図1点：陰影を入れた表現、建物敷地と道路との関係以外の表現はなし。 ●1階平面図1点：建物の空間名称と配置を詳しく表現したが、広場の計画図はなし。 ●2階平面図1点：2階部分の空間を表現しているが、配置図とはほぼ一緒	●南側2点、北側、西側、東側立面図各1点：聖堂と塔のファサードのデザインをはっきり表現した図面になっている。 ●断面図2点：聖堂建築のみの断面図になっている。	●外観透視図2点：聖堂と塔の全体的デザイン関係を強調した表現と、聖堂と広場の関係とを強調した表現。 ●聖堂内部透視図1点：聖堂内部のシャレン構造を強調した表現 ●南側透視図：聖堂環境のデザイン詳細を詳しく表現	特定な入り口はなく、西側に開放的な空間を設けている。聖堂は南北側に配置し、塔は西側に聖堂と離れて配置している。講堂などの建物は東側に集中して、敷地の中心部を広場として配置し、建物の各種空間は外廊下によってつながっているのが特徴的	●聖堂内観：放物線のシャレン構造を露出した聖堂空間になっており、そこに小さな円形窓などを天井と側面に設け、その変化する光によって聖堂の宗教的な表現を表現しようとした工夫が認められる。 ●外観：放物線のシャレン構造のデザインや十字架のデザインは、聖堂のファサードの連続的な宗教デザインなど日本の伝統と現代建築の融合の試みがある。聖者の人徳が表現し、復興を支える象徴であろうが、復元と相違しない。露出した十字架は聖堂内部には設けていないが、聖堂の正面には4つ小さな正方形窓で出来た十字架型を大きな十字架型と並列して設置している	●教会側：優美な建築表現と宗教的な作品が、海外の建築界や聖堂建築家など世界のカタログ方面からの強い反応と相違なく、期待された広島記念聖堂として実現することは不可能と指摘 ●点検部：放物線のシャレン構造から成る姿や広場の塔は、石造に馴染み深いには合わないが、シャレン構造の知見が新しいことも、パトリカを採用して進んだマサチューセッツの歩みから考え、もう一つの歩みで有り得、新しい聖堂として世界に誇りたい提案。聖者の人徳が表現的にかき、村が加えることも出来た問題ではない ●点検部：多少模範的な感じでは建築形態にも好意的な評価が多すぎるが、統のとれた創造的な力作と評価
3等入賞案	衛藤石郎案	不詳・鹿野	●透視図1点：建物、道路、樹木の関係を簡単に表現 ●平面図1点：建物の空間名称と配置を詳しく表現した	●西側、南側東側立面図各1点：外廊下、聖堂、塔のデザインを詳しく表現 ●断面図2点：聖堂のみ	●外観透視図1点：聖堂、塔と外廊下のデザインを強調した表現 ●聖堂内部透視図1点：聖堂内部の雰囲気デザインを詳しく表現	建物各空間を渡る廊下で結ぶ平面計画。聖堂と講堂を南側と北側に配置、間に附属空間、中庭を配置。	●聖堂内観空間：垂直線を強調、天井、側面に日本的な格子のデザイン。 ●外観：外廊下と連続して柱廊が印象的、聖堂と塔には十字架が付けられている。全体からは垂直感がある、モダンな外観	なし
			●透視図1点：建物と敷地関係を詳しく表現 ●平面図2点：建物の機能や名称付けを表現している。	●南、東、西側立面図3点：聖堂、講堂、塔のデザインを詳しく表現 ●東西軸、南北軸の断面2点	●外観透視図1点：塔を中心に1点透視 ●内観透視図1点：詳細より雰囲気を表わす内観 ●模範あり、採光関係の透視図1点	広場を中心に周辺に講堂や聖堂を配置。広場はガーデンで十字架をデザイン。塔は聖堂に少し離れて配置。	●聖堂内観：聖堂内側には連柱を設け、天井に突出した天窓からの光で宗教的雰囲気を表わす。 ●外観：塔を中心とした構成、講堂は陸屋根だが、斜面を取り、講堂に切戻しの屋根を乗せ、モダンなデザインに宗教的なものを入れた外観	●点検部：日本的格調が強く、環境に対する適応性に乏しいこと、なお未定型的な設計を持っているが、全体を載せている建築的センスと格調を与えたとの評価
	●透視図1点：建物の屋根形式や敷地関係を詳しく表現 ●平面図1階、2階各1点：聖堂、講堂、司教館をはっきり区分した表現	●立面図：東、南、西、北側4点：陰影を入れたながら聖堂の曲面の壁や屋根のデザインを詳しく表現 ●断面図2点：聖堂空間のみの断面図	●外観透視図1点：聖堂を中心とした広場と講堂関係を表わす表現 ●透視図1点：曲面の壁や窓のデザインを中心にイメージ的な表現	広場を中心に聖堂、講堂、司教館、広場がはっきり区分され、またその関係が明瞭なプランになっている。	●聖堂内観空間：曲面の壁や窓、アーチを繰り返す天井が印象的。なお窓の格子模様のデザインが優美さを表わす。 ●外観：聖堂正面と側面には円柱が深く突出した軒を支え、曲面の窓とアーチを繰り返した屋根と共に優雅で影が深い外観になっている。塔を設けてない	●教会側：聖堂の宗教的表現に優美な芸術的意匠の上の提案。記念聖堂として適切なものでない ●点検部：聖堂のデザインは、下り下り案に優るとも劣らない。ただ宗教的建築物が少しくはない。建物の建築的表現も出しても恥ずかしくないもの		
	●透視図1点：建物と敷地関係を詳しく表現 ●平面図1階、2階各1点：聖堂、講堂、司教館をはっきり区分した表現	●立面図：東、南、西側3点：陰影を入れたながら、建物全体デザインを表現 ●断面図1点：聖堂空間のみの断面図	●外観透視図1点：聖堂を中心とした広場と講堂関係を表わす表現 ●透視図1点：全体雰囲気を表わすとした表現	広場を中心に聖堂、講堂、司教館がはっきり区分され、またその関係が明瞭なプランになっている。	●聖堂内観空間：縦長窓、天井にデザインされた天井が特徴。 ●外観：聖堂正面に大きな十字架を設け、全体からは窓が少なく、重厚な感じを与えるモダンなデザイン。塔は設けていない	なし		
菊竹清訓案	早稲田・金澤・東	●透視図1点：建物と敷地関係を詳しく表現 ●平面図1点：建物の機能や名称付けを表現している。	●南、東、西側立面図3点：聖堂、講堂、塔のデザインを詳しく表現 ●東西軸、南北軸の断面2点	●外観透視図1点：塔を中心に1点透視 ●内観透視図1点：詳細より雰囲気を表わす内観 ●模範あり、採光関係の透視図1点	広場を中心に周辺に講堂や聖堂を配置。広場はガーデンで十字架をデザイン。塔は聖堂に少し離れて配置。	●聖堂内観：聖堂内側には連柱を設け、天井に突出した天窓からの光で宗教的雰囲気を表わす。 ●外観：塔を中心とした構成、講堂は陸屋根だが、斜面を取り、講堂に切戻しの屋根を乗せ、モダンなデザインに宗教的なものを入れた外観	●点検部：日本的格調が強く、環境に対する適応性に乏しいこと、なお未定型的な設計を持っているが、全体を載せている建築的センスと格調を与えたとの評価	
前川国男案	前川建築事務所・東	●透視図1点：建物の屋根形式や敷地関係を詳しく表現 ●平面図1階、2階各1点：聖堂、講堂、司教館をはっきり区分した表現	●立面図：東、南、西、北側4点：陰影を入れたながら聖堂の曲面の壁や屋根のデザインを詳しく表現 ●断面図2点：聖堂空間のみの断面図	●外観透視図1点：聖堂を中心とした広場と講堂関係を表わす表現 ●透視図1点：曲面の壁や窓のデザインを中心にイメージ的な表現	広場を中心に聖堂、講堂、司教館がはっきり区分され、またその関係が明瞭なプランになっている。	●聖堂内観空間：縦長窓、天井にデザインされた天井が特徴。 ●外観：聖堂正面に大きな十字架を設け、全体からは窓が少なく、重厚な感じを与えるモダンなデザイン。塔は設けていない	なし	
米澤雄策案	不詳・東京	●透視図1点：建物と敷地関係を詳しく表現 ●平面図1階、2階各1点：聖堂、講堂、司教館をはっきり区分した表現	●立面図：東、南、西側3点：陰影を入れたながら、建物全体デザインを表現 ●断面図1点：聖堂空間のみの断面図	●外観透視図1点：聖堂を中心とした広場と講堂関係を表わす表現 ●透視図1点：全体雰囲気を表わすとした表現	広場を中心に聖堂、講堂、司教館がはっきり区分され、またその関係が明瞭なプランになっている。	●聖堂内観空間：縦長窓、天井にデザインされた天井が特徴。 ●外観：聖堂正面に大きな十字架を設け、全体からは窓が少なく、重厚な感じを与えるモダンなデザイン。塔は設けていない	なし	

になり、聖堂と塔の頂部には十字架が設けられ、宗教雰囲気を表わそうとしている。菊竹案は全体的に塔を中心とした構成、聖堂は陸屋根に傾斜を取り、講堂には切妻状の屋根を乗せている。モダンなデザインに伝統的なものを入れようとした工夫が読み取れるが、完成度が低い。前川案外観は聖堂正面と側面には円柱が深く突出した軒を支え、曲面の窓とアーチを繰り返した屋根と共に優雅で影が深い外観デザインになっているが、記念聖堂としての壮厳性が欠けている。米澤案は聖堂正面に大きな十字架を設け、全体的には窓が少なく、重厚な感じを与えるモダンなデザイン。前川案と共に単独の塔は設けていない。

以上をまとめると表1のようになる。

3. 結び

以上のように、それぞれの入賞案にはモダンの、日本的、宗教的、記念的という要求に答えた設計手法も見えるものの、その全般を調和させることがこのコンペの主眼であったが、それぞれ足りなかったと言ってもよい。ただし、設計競技である以上、全てを満足させるのは無理であり、野村藤吾により設計された実物にもコンペ主旨に見当たらない部分も多少あると思われる。今度あらためて論じていきたい。

1) 野村、石丸純典「戦後日本のコンペに見る建築家の建築計画・設計理念とその手法に関する研究その1」広島市前記念聖堂のコンペの場合—入賞案と建築家」日本建築学会2002年度大会（金沢）学術講演要録集、2002年8月。

広島国際大学建築創造学科 助手 博 (工) *Research Assoc., Department of Integrated Architecture Hiroshima International University, Dr.Eng.
 広島国際大学建築創造学科 教授 工博 **Prof., Dept. of Architecture Faculty of Engineering, Hiroshima International University, Dr.Eng.
 広島大学工学部建築学教室 助教授 工修 ***Assoc. Prof., Dept. of Architecture Faculty of Engineering, Hiroshima University, M.Eng.